

短歌で紡ぐ

架空の恋

vol1. 第1首～20首

麗 + 優

## はじめに・物語について

美紅と清史が短歌を交わしながら恋に落ちていく…。

これは、ブログ「[短歌で紡ぐ架空の恋](#)」から生まれた恋の物語です。

短歌を交換していくうちに、ふたりの間に恋の感情が芽生えていく様子を描いています。

みなさんが恋の物語に引き込まれていくような、そんな歌を紡いでいければと思っています。

---

ここに登場する、陶山美紅と太田清史は実在しない架空の人物です。

男女の恋の歌をやりとりするために生まれたふたりなのです。

短歌に興味をもった美紅と清史は、同じ時期に短歌の会に参加するようになります。

そこで、ふたりは出会うのです。

はじめは、会合の中でだけ話をする程度でしたが、ある日清史が美紅に頼みごとをするのです。

「僕と短歌のやりとりをしてもらえませんか？」

そこから、ふたりの恋の短歌のやりとりが始まるのですが…。

メールでやりとりする、ふたりのうたを楽しんでみてください。

---

## 登場人物の紹介

### 陶山美紅（とうやまみく）

性別：女性

年齢：42歳

血液型：O型

28歳のときに、夫が不慮の死で他界してしまう。

夫が亡くなった後も再婚することもなく、独り身のまま過ごしていた。

ようやく夫との気持ちも整理がついたと思っていたときに衝撃の出逢いをしてしまう。

死んだ夫に面差しの似た若者・清史に出逢ってしまうのだ…。

---

### 太田清史（おおたせいじ）

性別：男性

年齢：27歳

血液型：AB型

会社に勤める普通のサラリーマンであるが、文学が好きなことが高じて、短歌の世界にハマってしまう。

短歌を学ぶために短歌の会に参加したところ、そこで運命的な出逢いをしてしまう。

一目惚れをしてしまった相手は15歳年上の未亡人であったのだ…。

## 第一首 清史の短歌

陶山美紅様

突然、こんなお願いをするのも不躰かと思ったのですが…。  
僕と良かったら短歌を交換してくれませんか？

**「あなたとの出逢いが僕の人生をすべて変えてく新しい風」**

短歌の会で出逢ったのも何かのご縁かと思えます。

太田清史

.....  
清史の短歌の説明

あなたと出逢えたことで僕の人生はがらりと変わりました。  
まるでまったく別の新しい人生が始まったかのようです。  
新しい風が吹いてきたかのように…。

.....





## 第二首 美紅の短歌

太田清史さま

ありがとうございます。  
私で良ければ喜んで。  
一緒に上達しましょうね。

「よろしくと差し出された手に頬を染め私にとっては懐かしい風」

どうぞよろしくお願いします。

陶山美紅

---

美紅の短歌の説明

清史の突然の申し出に驚きながらも、頬を染め快諾する美紅。

清史は初めましてと言うけれど、私にはかつて愛した懐かしい顔。

---

## 第三首 清史の短歌

陶山美紅様

早速、返歌ありがとうございます。  
陶山さんとこうして歌のやりとりができるだなんてうれしい限りです。

**「白い肌 染まる頬には薄紅の桜のような花が咲くなり」**

頬を染めにかけてみました。  
もうそろそろ桜の季節ですね。


太田清史

---

清史の短歌の説明

あなたの白い肌が赤く染まっていく。  
その頬が薄紅色に染まるさまは、まるで桜が咲いたように美しい。

---



白い肌  
染まる頬には薄紅の  
桜のような花が咲くなり

第三首 清史の短歌

## 第四首 美紅の短歌

太田清史さま

まあ、素敵な返歌！  
今にも桜色に染まってしまいそうです。  
「白い肌」だなんて意外と大胆。  
そんなあなたとお花見する夢を見ています。

**「ふうわりと桜の花びら舞い降りて触れた肩先君の指かな」**

美紅

---

美紅の短歌の説明

桜の花弁がふうわりと舞い降りたのは私の肩先。  
あなたに触れられるのを思いうっとりします。

---



## 第五首 清史の短歌

陶山美紅様

よく意外と言われます。  
口にするのは苦手なのですが、文章だと素の自分がついでてしまいます。  
お花見、夢だけではなく…。

**「桜咲く夢の中ではきみ笑顔 舞う花びらが心地よすぎて」**

清史

---

清史の短歌の説明

夢の中では、あなたと一緒に桜を眺めているんですね。  
つまりは、あなたの笑顔も見ることができるということ。  
想像したら舞う花びらすら心地よく思えてきました。

---

## 第六首 美紅の短歌

太田清史さま

清史さん、ありがとう。

優しい気持ちになりました。

どこまでも続く桜並木、ひらひらと舞い落ちる花びら。

その隣にあなたがいたら素敵でしょうね。

**「薄藍の天を仰げば桜雲 流るる風にあなたも香る」**

美紅

---

美紅の短歌の説明

澄み切った空に広がる枝々はまるで桜の雲。

ふと流れる風にあなたを感じます。

---



## 第七首 清史の短歌

陶山様

歌の中では僕の素をそのまま紡いでいこうと思います。  
現実の世界の桜も、まもなく咲きますね。

**「流れてく桜も雲も風だより夢か現かわからないまま」**

陶山さんの素はどこにあるのですか？  
こうやって歌のやりとりをしていると、  
僕は、夢か現かわからなくなってしまいます…。

清史

---

清史の短歌の説明

楽しい時間はあっという間に過ぎてしまう。  
桜も雲もあっという間に流れてしまう。  
雲のように頼りなく、風の便りも切なく…。  
ああ、これは夢なのですか？  
それとも現実の出来事なのですか？

---

## 第八首 美紅の短歌

太田清史さま

夢のようでも現実のようでも、  
今はたゆたう感じが私には心地良いのです。  
清史さん、あなたとならば。

「しばらくはたゆたう心そのままに水面に浮かぶふたひらの花」

美紅


---

美紅の短歌の説明

今しばらくは私達、水面に浮かぶ花のように。  
流れに委ねてゆらゆらと試してみませんか？

---





しばらくは  
たゆたう心そのままに  
水面に浮かぶ  
ふたひらの花

第八首 美紅の短歌

## 第九首 清史の短歌

陶山様

返歌遅くなってしまいました。

僕の中では、まだうまくたゆたうことができないようです…。

**「たゆたうはあそび心が必要で行き先なき身はらはら揺れる」**

楽しめるのは、陶山さんが大人の女性だからなのでしょうか？

清史

---

清史の短歌の説明

たゆたうのにもあそび心が必要ですよね。

あそび心がない僕は、うまくたゆたうことができません。

この行き場のない想いはどうすればいいのでしょうか。

心はらはら揺れています。

---

## 第十首 美紅の短歌

太田清史さま

清史さん、随分悩ませてしまったようですね。  
悩んでいるのは私も同じ。  
あなたと交わしているとあの頃の私を思い出してしまうのです。

**「留まればこの身揺さぶる納めた想い大人が故の臆病なのかな」**

美紅

---

美紅の短歌の説明

現実にじっと目を向けることが怖いのです。  
やっと忘れた想いに揺れてしまいそうで。

---





## 作者対談 第十首までの振り返り

美紅と清史の架空の物語ですが…。

読まれている方には、わかりづらい部分もあるかと思います。

そこで十首までの振り返りを作者対談で行っています。

---

**優** ようやく[ブログ](#)に10首の短歌をアップすることができたけど、短歌を公開してみよう？もちろん、短歌を詠むのが楽しいと思うけど、詩や短歌って今まで作ったことないよね？

**麗** やっと10首！お疲れ様でした。（笑）数ヶ月前まで短歌に対して興味ゼロだった私が、よくここまで夢中になったなあ、と自分でびっくり。創作しかもそれを公開なんて初体験だったから、最初は恥ずかしくて恥ずかしくて(笑)でも何首かアップしてしまうとそれも次第に…(笑)

**優** あっ、改めて10首お疲れ様です。（笑）そうそう、今まで麗が短歌を詠むなんて思っていなかったけど、詠もうと思ったきっかけは何？そうそう、はじめは恥ずかしいけど、だんだん創作していくと、それを人に見てもらいたいって気持ちになるでしょう？（笑）

**麗** きっかけは小学生の娘の冬休みの宿題と杉田圭さんの『超訳百人一首 うた恋い。』。『うた恋い』シリーズは昨年からある方(笑)に薦められ課題図書！とまで言われてたのだけど、娘の宿題で百人一首を何首か覚えると言うのがあって。親としての意地と目眩くような和歌の世界が結合した結果、現在に至ってます(笑) そうねえ、せっかく試行錯誤して生まれた言葉だから、見てもらえて共感してもらえたら、こんな喜びは無いかなあと。ちょっと欲が芽生えたかも(笑)

---



## 作者対談 第十首までの振り返り

---

優 まるで作家インタビューみたいな受け答えだね。(笑)『うた恋い』は百人一首の恋歌だけを集めたマンガだけど、これはなぜ今まで敬遠していたの？僕はこの作品好きだけど、まさか自分が短歌詠むようになるとは思わなかったなあ。そうそう、目眩くの部分、読者の方々に詳しく説明してあげた方がいいと思うよ。(笑)

麗 (笑)作家じゃないのに。理由は食わず嫌いかなあ。古典もマンガも(爆)えっ？「目眩く」の説明？(笑)ダメと言われたら一層燃えるような？届きそうで届かない焦らされる感じ？一筋縄では行かない恋とか？もっと要りますか？(笑)

優 以前から、マンガは読まないって言ってたもんね。古典も敬遠していたんだ。なるほど。一言で言ってしまうと、麗にとっては短歌は「官能」なんだね。たしかに恋の短歌を詠むのは、下手にラブレターを書くよりも面白いかもね。さて、そろそろ核心に…。10首まで紡いでみてどうだった？印象深い一首とかある？

麗 官能…。確かにそうかも。いかに自分に自分をさらけ出して、いかにそれをそのまま相手に感じてもらうかってところが、官能的よね。印象深い(嬉しかった)のは、三首目の清史の「白い肌～」。「肌」って言葉に男性を感じてしまいました。ぽっ。(笑)美紅の歌だと断然六首目の「薄藍の～」。この一首で詠む楽しさを覚えてしまったと言っても過言では無い！(笑)

優 感じてもらうって重要かもね。そんなことを短歌素人の自分たちが言うのもどうかとは思うけど。(笑)三首目の「白い肌～」はいいよね。薄紅との色合いを想像しながら作った歌だな。「薄藍」もそうだけど、色の表現ってイメージが湧くよね。まだ、言い足りないけれど…そろそろ第一回目の対談を終わりしないといけないので、最後にひとことお願いします。

麗 えー、いつも読んでくださってる皆さん、ありがとうございます。美紅は久しぶりの高鳴りに今揺れています！今後の二人に私も注目です！(笑)

---

## 第十一首 清史の短歌

陶山様

陶山さんを悩ませてしまっていたのですね…。

**「留まれども時も心も移りけり過去を流して未来の扉」**

どんなことがあったかは、僕にはわかりません。  
でも、過去は水に流すことができると思います。  
それとも…僕では子ども過ぎるでしょうか？

清史

---

清史の短歌の説明

留まっていると思っていた心も、  
時が経つことで移り変わるのではないのでしょうか。  
そろそろ過去の想いは水に流してしまいませんか？  
この先には未来の扉があると思うんです。

---



## 第十二首 美紅の短歌

太田清史さま

過去にこだわり過ぎる私の方こそ子どもかもしれません。

**「ひとすじの光となりて君の歌長い時あけ心射し込む」**

私をここから連れ出して下さいますか？

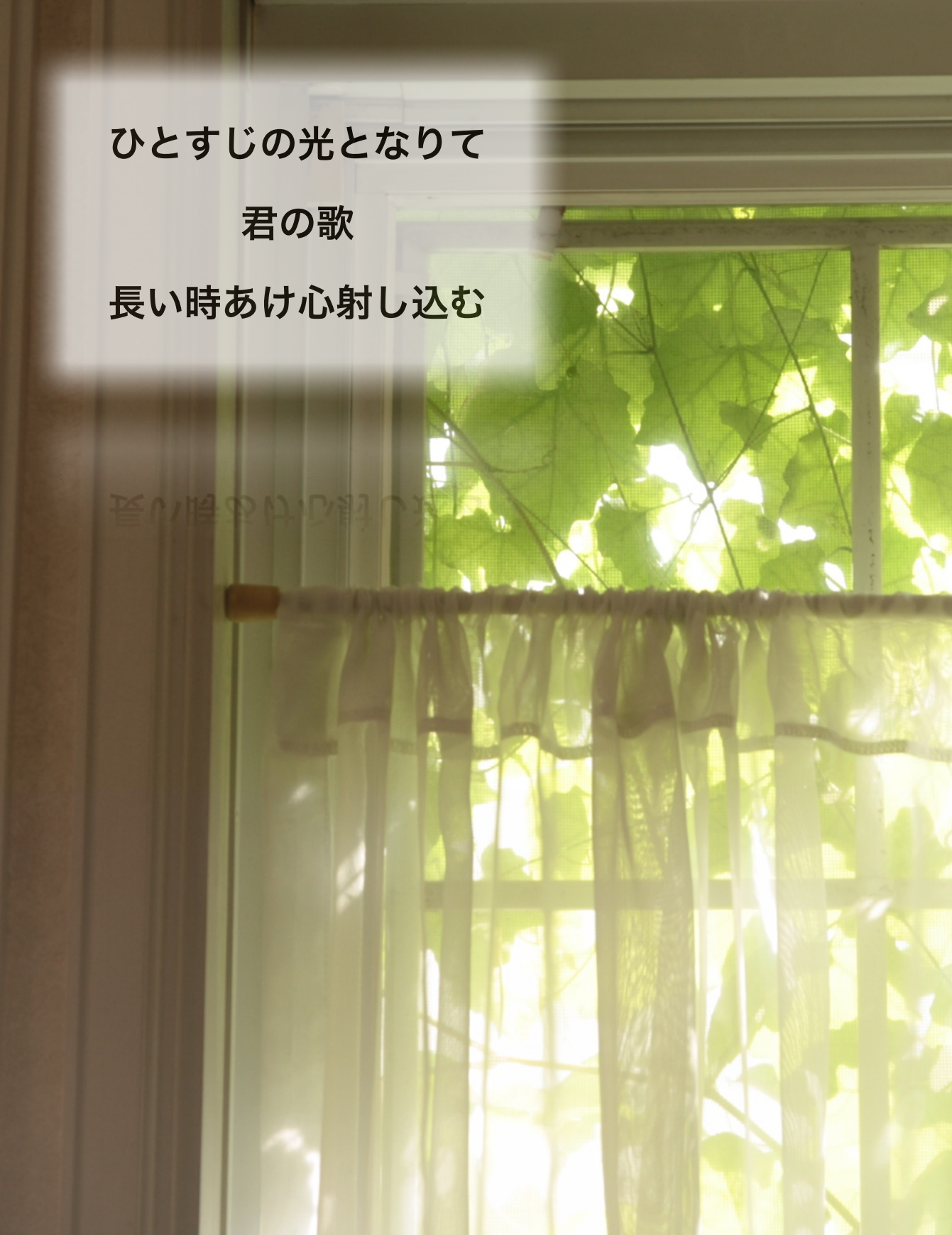
美紅

---

美紅の短歌の説明

過去に囚われてきた長い時は明けて、  
今私の心にひとすじの光が射してきました。  
それは清史さん、あなたの歌であり想いです。  
未来の扉も開いたように思います。

---



ひとすじの光となりて

君の歌

長い時あけ心射し込む

第十二首 美紅の短歌



## 第十三首 清史の短歌

陶山様

陶山様 過去に何があったのですか？  
僕で良かったら話を聞かせてもらえないですか？

**「長いとき 闇はかならず光へと 孤独をはなれ共に歩みたい」**

孤独な旅はもうやめて、僕と一緒に新しい道に行きましょう。

清史

---

清史の短歌の説明

どんな深い闇も、長い時間をかけて  
かならず光へと変わると思うのです。  
もう闇の孤独からは離れませんか？  
そして…僕と一緒に歩みませんか？

---

## 第十四首 美紅の短歌

太田清史さま

昔、大事な人を失ったのです。その人はあなたに良く似た人でした。

「惹かれども恋うる心を許されず千々に乱れて幾夜悩みぬ」

美紅

---

美紅の短歌の説明

あなたに惹かれています。  
けれども恋することを私自身は許していません。  
幾晩も悩みに悩んで心乱されています。



## 第十五首 清史の短歌

陶山様

いろいろ考えてしまい、返歌遅くなってしまいました。

僕に似ていたのですか？

僕ではその方の代わりにならないですか？

**「惹かれるなら心開いて恋うことも ゆるされるはずあなたとならば」**

清史

---

清史の短歌の説明

惹かれる心を閉じる必要がありますか？

惹かれるなら心を開いて恋することだってできるはず。

あなたと僕ならば、そんな恋も許されるのではないですか？

---

## 第十六首 美紅の短歌

清史さま

代わりだなんて思いたくありません。  
清史さんは清史さんです。  
正直、重ねてしまう瞬間もありますが。  
歩きながら、色々お話してみませんか？  
桜が散ってしまう前に。

**「我ころろ さらうあなたは春嵐 花散るようで心もとなく」**

美紅

---

美紅の短歌の説明

穏やかだった私の日々を揺らすのは春の嵐のようなあなた。  
ぱっと来てぱっと去ってしまうようで不安です。

---

## 第十七首 清史の短歌

陶山様

代わりでもいいと思ったのですが…。  
その言葉を聞いて安心しました。  
その方のことも含めて、桜を見ながらお話ししましょう。

**「春嵐 さらう心を留めては 花散里に通うと誓う」**

清史


---

清史の短歌の説明

春嵐は心までさらって荒らしていくかもしれません。  
でも、僕はちがいます。  
あなたの側に留まるのです。  
花が散った後もあなたとはつながっていると誓います。

---





春嵐

さらう心を留めては  
花散里に通うと誓う

第十七首 清史の短歌

## 第十八首 美紅の短歌

清史さま

「花散里に留まる」あなたを信じてみたいです。  
清史さんの一番好きな桜を見せてください。

「心満ち花散里に涙落ちあなたの誓い花に証して」

美紅

---

美紅の短歌の説明

あなたの気持ちが嬉しく心に染みて、  
思わず泣いてしまうほどでした。  
その誓いは桜の花が証明してくれますね。

---

## 第十九首 清史の短歌

陶山様

信じてください。

僕が一番好きな桜を美紅さんに見せますね。

明日の夜に待ち合わせで良いですか？

**「待ち望む 桜も心も咲き乱れ 花を証に ふたりのはじまり」**

清史

---

清史の短歌の説明

待ち望む季節がやってきました。

桜もあなたの心も、今まさに咲こうとしているのですね。

ふたりのはじまりの証として桜を見に行きましょう。

---

## 第二十首 美紅の短歌

清史さま

清史さんを待ちながら詠んでみました。

**「春来たり逸るころは 天翔けて抑えきれずに花弾け散る」**

あなたの姿を見つけたときは、ほっとしました。

「美紅さん！」って呼んでくれたことに感激しました。

とっても恥ずかしかったけれど。

美紅

---

美紅の短歌の説明

あなたは春、私は桜。

清史さん、あなたの姿を待ち焦がれ、

たまらず弾け散ってしまいそうなほどです。

---





春来たり

逸るころは 天翔けて  
抑えきれずに花弾け散る



第二十首 美紅の短歌



## 作者の紹介

ここでは、美紅と清史が主役ですが…。  
ほんの少しだけ、作者についても紹介させてくださいね。

---

### 麗（れい）

性別：女性

血液型：O型

短歌歴:興味を覚えたばかりの初心者です。

読書メーター：[レイのページ](#)

ひとこと:陶山美紅の短歌を担当しています。

『うた恋い』がきっかけで和歌の世界に魅了されました。

複雑な女心を詠っていきたいです。よろしくお願いします。

---

### 優（まさ）

性別：男性

血液型：O型

短歌歴：詩を書いたことはありますが、短歌はまったくの初心者です。

読書メーター：[masaのページ](#)

書評ブログ：[良薬は口に苦し 良書は心に甘し](#)

ひとこと：太田清史の短歌を担当しています。

設定が短歌の会で歌を作り始めたふたりとなっていますので、

僕自身も勉強しながら短歌を作っていこうと思っています。

## 作者対談 第二十首までの振り返り

美紅と清史の短歌のやりとりは、今回は二十首で終わりです。ブログでは、まだまだ続きますが、ここで二十首までの振り返りをしていますので良かったらお付き合いください。

---

**優** いつもこの[ブログ](#)を読んでくださっているみなさまありがとうございます。作者対談も二回目となりました。まずは二十首までお疲れ様でした。短歌ではスムーズにやりとりしていると思うけど、見えない苦労というか、創作するにあたって大変だったことあるよね。その辺りはどうだった？

**麗** お疲れ様でした！ たくさんあります(笑) でも一番大変なのは美紅と私の性格が真逆なこと(爆) だから毎回「美紅だったらどう感じるかなあ？」と一歩引いたりしてます。自分の思いと美紅の思いが交錯して複雑な心境(笑) 優くんは？

**優** 性格が真逆なところというのが気になるなあ。具体的にどういうところが真逆なんだろう？ たしかに、麗と同じで自分が詠むのではなく清史が詠むというのが難しいよね。特に美紅に好きという気持ちをさりげなく伝えるのが大変だったな。美紅はつれないし。(笑)

**麗** つれなくしたつもりは！(笑) そうかー、感情を抑えて美紅仕様にするとうなるのねー。そして優くんは「好きをさりげなく伝えるのが苦手」と。メモメモ(笑) 美紅と真逆なところは、美紅の非恋愛体質。こんなに(妄想上(笑))素敵な若い男性から言い寄られてるのに何故？ 早くキメちゃいなよっ！ て発破かけたくなる(爆)

**優** そうか〜。美紅的にはつれなくしたつもりはないんだ。たしかにそうだよね。事情を抱えているから感情を抑えざるを得ないのかな。そんなところはメモしなくていいですから！(笑) そうそう、美紅の非恋愛体質もすごいよね。このふたりって現代の男女っていうよりも、明治とか大正の時代にできそうな感じじゃない？

---

## 作者対談 第二十首までの振り返り

---

**麗** 美紅は最愛の人を亡くしてる設定だから、簡単には心は動かない。確かに、二人の間に現代の時の流れを感じないよね。明治大正なら、未亡人とそのお屋敷に通う書生さんのイメージ？(笑)

**優** そうそう、美紅には重い過去があるんだよね。しかも、その最愛の人と清史が似ているという設定だよね？たしかに。美紅はお金持ちのお嬢様、清史は書生のイメージあるよね。(笑) そろそろ核心に迫らないと…。今回影響を受けているネタだったり、印象に残った歌ってある？

**麗** ネタも歌も同じなんだけど、第十六首と第十七首の「花散里」のやり取りは口マンチックだったなあと。美紅の「その好きって気持ちは若い人特有の一過性のものでしょう？」という年上女性の不安を一気に吹き飛ばした清史の返歌だった。清史が「通うと誓う」と言ってくれたことが嬉しくて、私、実際に泣いちゃったもん(爆)

**優** ああ、たしかに。二十首までの中であそこが一番ドラマチックでふたりの感情が動いたところだよね。清史の若さゆえの熱情というか、「そんなことないです。僕は違います！」という気持ちが表れてるよね。おや、麗は泣いちゃいましたか。(笑) そうそう、ここに出てくる花散里は源氏物語からいただきました。イメージとしてふっと湧いてきたんだよね。

**麗** 普段の穏やかな優くんからあんな熱情たっぷりの歌をもらった日には誰だって感激しちゃうよー(笑) 最近ちょうど源氏物語にハマっていて「花散里」を読んだんだけど、見直すと更にいいよね♪ やっと想いが通じた清史と過去をふっきれそうな美紅。この後の心の距離感をどう詠んでいくか。「二人らしさ」これが課題かな。では続きは[ブログ](#)でお楽しみを♪ 頑張りまーす！

---

※この作品は、2014年3～5月まで[ブログ「短歌で紡ぐ架空の恋」](#)に掲載された内容を加筆修正したのになります。



## あとがきとして…。

単純に、はじめた動機は平安の歌人のように、短歌を使って恋のうたのやりとりをしたいという想いから遊び心ではじめたブログでした。

でも、ふたりで恋の歌を交わしていくうちに、美紅と清史の今後の展開をもっと見てみたいという気持ちに変わったのです。

そして、二十首までたどり着いたときに…もっとたくさんの人たちにこの物語を読んでほしいという気持ちがでてきたのです。

まだ、ふたりの物語ははじまったばかりです。

ブログ「[短歌で紡ぐ架空の恋](#)」では二十首以降の短歌も綴っていく予定ですので、是非今後の展開も温かく見守ってくださると嬉しいです。

最後になりましたが、ここまで読んでくださったみなさんに感謝の気持ちをこめて…。



Copyright © 短歌で紡ぐ架空の恋 Allrights Reserved.

<http://fictitiouslove.blog.fc2.com/>